



高井戸東小学校

10月号
No. 620

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/takaidohigashisyou/> TEL 03-3304-5711

秋の風に乗って、新たな挑戦を

副校長 池田 浩

令和6年度も早いもので折り返しです。とても暑い日が続いていましたが、ようやく秋の風が心地よく感じられる季節となりました。秋は爽やかで何をするにもふさわしい季節です。何かに挑戦するのもよいですね。

さて、「ファーストペンギン」という言葉を知っていますか。この言葉はペンギンの習性に由来されています。ペンギンはどこかに移動する時、まず群れの中の一匹が動き、その後に残りの群れが従って動くという習性があるそうです。南極に暮らすペンギンたちは、海に飛び込んで食料となる魚を捕る必要があります。ところが海の中にはシャチやアザラシといったペンギンにとっては大敵が、待っています。「魚は食べたいけど、食べられてしまうかもしれない。」しかし、中にはリスクをものともせず、自分を信じてチャンスをつかもうとする勇気あるペンギンがいます。それがファーストペンギンです。ファーストペンギンはリスクを負いますが、誰よりも先にえさにありつくチャンスを得るだけでなく、仲間が安心して海に入ることができる状況をつくることで群れに大きな貢献もできるのです。

学校での活動や普段の生活でも同じです。何か新しいことに挑戦する時は、ファーストペンギンのように「いくぞ!」「やるぞ!」といった勇気が大切です。自信や勇気がなくて発言しなかったり、行動できなかつたりする人はたくさんいることでしょう。しかし、失敗することを怖がって最初の一步を踏み出さなければチャンスをつかむことができません。

あるスポーツの有名な指導者が、こんなことをいっています。

「成功の対極は失敗ではない。成功の対極とは挑戦をしないことである。そして挑戦し続ける者だけが成功をつかむことができる。」

絵本作家の方が、ある講演会で語った言葉の一部も紹介します。

「失敗した瞬間に止めてしまうから失敗が存在する。失敗を受け入れて、試行錯誤を繰り返して、成功に辿りついたとき、あの日の失敗が必要だったことを私達は知る。つまり理論上、この世界に失敗など存在しない。だから、挑戦してほしい。」

私たちは「失敗」という言葉に、どうしてもネガティブなイメージをもつ傾向があります。実際にうまくいっていないときというのは、本当に辛い気持ちになります。けれども「失敗があったからこそ、次の大きな飛躍につなげることができる」という考えも大切にしていかなければならないと思うのです。また、挑戦することで、自分自身の成長を感じることができるでしょう。そして、その経験が自身の未来をより豊かにしてくれるはずです。勇気をもって最初の一步を踏み出し、自分の無限の可能性を引き出し、それを伸ばしてほしいと願っています。

子供たちが、明るく、前向きに、挑戦し続けることができる人に成長していくことを願い、子供たちを全力で支援していきます。

本校の特別支援の取り組み

特別支援コーディネーター 鈴木 勇人

本校の特別支援の取り組み

本校では、これまで特別支援教育充実のため、通級指導教室(たかひがし教室)の活用や学習支援が必要な児童への個別の取り出し指導、校内特別支援委員会を中心とした支援策の協議等に取り組んできています。

また、必要なお子さんについては、長期的な視点できめ細やかな教育的支援を行うために、担任と保護者と相談しながら、「個別の教育支援教育」と「個別指導計画」を作成しています。「個別の指導計画」は、より具体的に指導目標や指導内容・方法を設定して作成され、通級や取り出しの学習にも生かされています。

合理的配慮

「合理的配慮」とは、「障害者の権利に関する条約」や「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に記載されています。簡単に言うと、一人一人の子供たちにとって、学習しやすい環境にしていくことです。例えば、黒板の字が見やすい場所に座席を考慮したり、集中力の妨げにならないように、黒板周辺には掲示物を貼ったりしないなどが「合理的配慮」の一例です。学校生活に支障をきたすようなことがないように、全教職員で連携を図りながら、子供たちが安心して学校生活が送れるようにするために、子供たちの学習環境を整えることを意識しています。